

⑬ 日本国特許庁 (JP)

① 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60—483

⑤ Int. CL⁴
E 03 F 5:046

識別記号

庁内整理番号
6572—2D

④ 公開 昭和60年(1985)1月5日

審査請求 有

(全 頁)

54 水路付き境界ブロック

⑧ 考 案 者 草竹杉晃

奈良市南京終町4丁目247番地

② 実 願 昭59—72802

⑦ 出 願 人 草竹杉晃

奈良市南京終町4丁目247番地

③ 出 願 昭52(1977)11月5日

(前特許出願日援用)

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 考案の名称 水路付き境界ブロック
2. 実用新案登録請求の範囲

U形筒状体(7)の一方の側壁を立上がらせ且つその立上がり壁(9)に対向する他方の側壁上部を立上がり壁(9)側へ膨出させると共に、その膨出部(8)と背向する側壁上部の角(17)を斜めに欠落させて成る水路付き境界ブロック。

3. 考案の詳細な説明

考案の目的

a 産業上の利用分野

本考案は歩道と車道との境界、中央分離帯と車道との境界或いは宅地境界に設置する水路付き境界ブロックに関する。

b 従来の技術

従来、車道と歩道を区別する道路施工法は第1図に示すように、割り栗石(1)上にコンクリート(2)を現場打ちし、コンクリート(2)上に長尺の略四角柱状の境界ブロック(3)を列設して車道(4)と歩道(5)に段差を付し、また第2図に示すように割り栗石

(1) 上に現場打ちしたコンクリート(2)をもつてヒューム管(6)を固定し、更にコンクリート(2)上に境界ブロック(3)を列設して車道(4)と歩道(5)に段差を設けて区別すると共に排水管を埋設している。

○ 考案が解決しようとする問題点

何れの場合も適宜間隔ごとに集水枳を埋設することを要すると共に工期は長期に及び、また境界ブロック(3)の側面に自動車のタイヤが接触すると大きな摩擦力を生じることにより歩道(5)上に乗り上げ歩行者と接触事故を惹き起こす虞れがあり、また歩道(5)上に不法駐車することになり、更にコンクリート(2)の車道(4)側端部が角立っているため車道(4)を舗装するときローラ転圧によつてその角部が欠損することが多い。

考案の構成

a 問題点を解決するための手段

U形筒状体の一方の側壁を立上がらせ且つその立上がり壁に対向する他方の側壁上部を立上がり壁側へ膨出させると共に、その膨出部と背向する側壁上部の角を斜めに欠落させたのである。

㇑ 考案の作用及び実施例

本考案の実施例を図面によつて詳述すると、第 3 図に示すように長尺の U 形筒状体 (7) の上面に長手方向に地表水が流入する下方で拡開状の流入口 (8) を開口し、U 形筒状体 (7) の一方の側壁を上方へ延設して立上がり壁 (9) の車道 (4) に対面する側面を流入口 (8) を被うように傾斜させると共に角部に丸味を付し、更に筒状体 (7) の他方の側壁上部を立上がり壁 (9) 側へ膨出させてその膨出部 (8Y) の側端面を下方拡開状に形成し、その膨出部 (8Y) と背向する側壁上部の角 (7Y) 即ち車道 (4) と接する面を斜めに欠落させ、更に U 形筒状体 (7) の外側壁下部に突縁 (7Z) を突設すると共に U 形筒状体 (7) の内底部を円形の流水路 (10) とする。また第 4 図に示すように立上がり壁 (9) の上端を断面半円に形成し、また第 5 図に示すようにブロックの側面にブロック同志を凹凸嵌合して接合する凸部または凹部 (11) を形成し、また第 6 図に示すように上部を膨出させたブロック (12) を U 形筒状体 (7) の上面に凹設した段部に立設固着することにより立上がり壁 (9) の代用とすること

もできる。

考案の効果

本考案はこのようにして成るから、転圧した割り栗石(1)上に多数のU形筒状体(7)・・を列設し、更に車道(4)側及び歩道(5)側にも割り栗石(1)を転圧しアスファルトまたはコンクリート舗装すると迅速且つ容易に車道(4)と歩道(5)を区別した段差を有し然も側溝水路付きの境界ブロックを設置することができ、地表水は流入口(8)からU形筒状体(7)内へ流れ落ちるのであり、粗大なゴミは流入口(8)から侵入せず、また小さなゴミは流入口(8)側の膨出部(8')が下方拡開状に形成されているため詰まらずに円形の流水路(10)へ落ち流水と共に流れ去る。更に流入口(8)を被うように立上がり壁(9)を形成しているから足や自転車のタイヤが落ちこむ虞れがなく安全であり、また自動車のタイヤが立上がり壁(9)の側面に接触すると、その接触断面が円弧状の丸味を有するためタイヤ側面と線接触し、摩擦抵抗が少ないためタイヤが滑つて歩道(5)上へ乗り上げることなく車道(4)の進行方向へ押し戻す作用をし

歩行者との接触事故を起こす虞れがなく、また歩道(6)上へ乗り上げて不法駐車することができない。また流入口(8)の長手方向の中心線を境界ラインとすると土地の境界線を容易に設定でき、更に立上がり壁(9)は縁石を兼ねるから経済性に勝れ、車道(5)や歩道(4)にアスファルトもしくはコンクリートを転圧するとき立上がり壁(9)を歩道(4)側へ傾斜させていること、及びU形筒状体(7)の他の側壁の上部の角(17)を斜めに欠落させていることによつて該部が欠損せず美麗に舗装を仕上げることもできる。

このように本考案によれば施工は迅速且つ容易で然もきわめて短期で済み、構造は簡単で耐久力を有し且つ大量生産に適する有用考案である。

4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は従来公知の境界ブロックの施工状態を示す一部縦断正面図、第3図は本考案に係る水路付き境界ブロックの施工状態を示す一部縦断正面図、第4図及び第5図は本考案の他の実施例を示す正面図、第6図は本考案に係る水路

付き境界ブロックの上面に他のブロックを固着した状態を示す正面図である。

(7) .. U 形筒状体 (7Y) .. 角 (8) .. 流入口

(8Y) .. 流入口の側端面 (9) .. 立上がり壁

実用新案登録出願人 草 竹 杉 晃



BEST AVAILABLE COPY

BEST AVAILABLE COPY

図 3

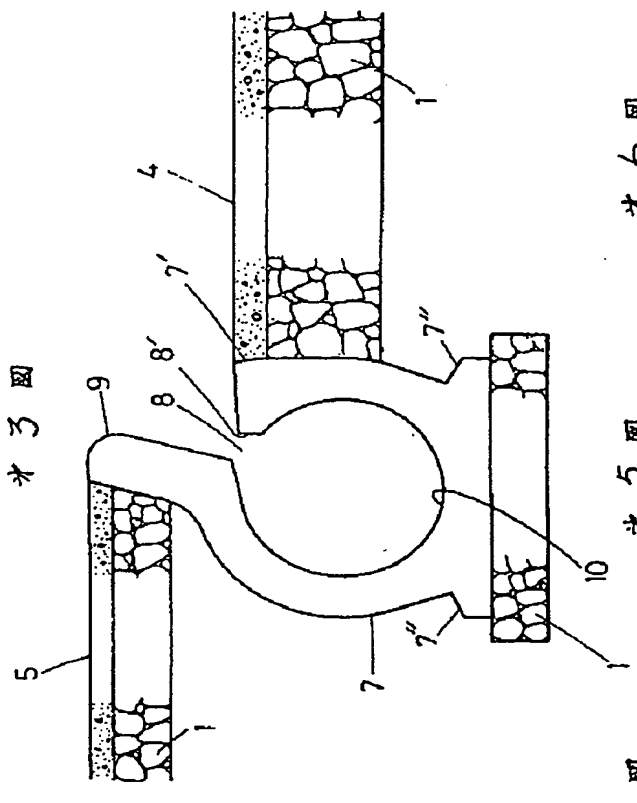


図 1

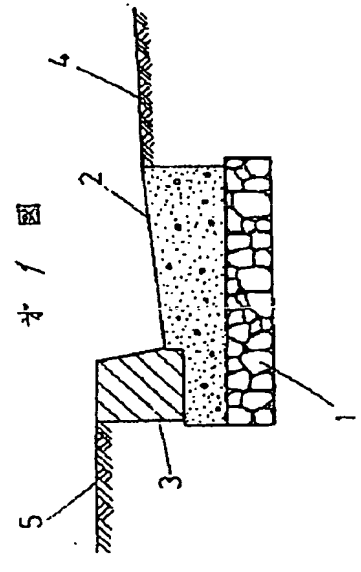


図 2

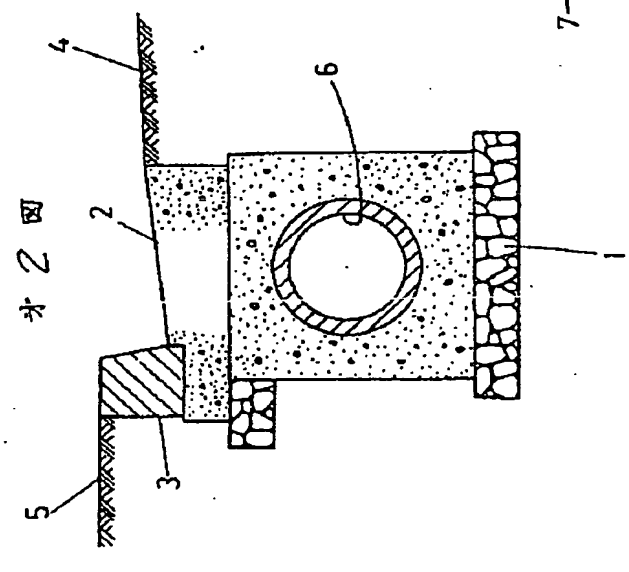


図 4

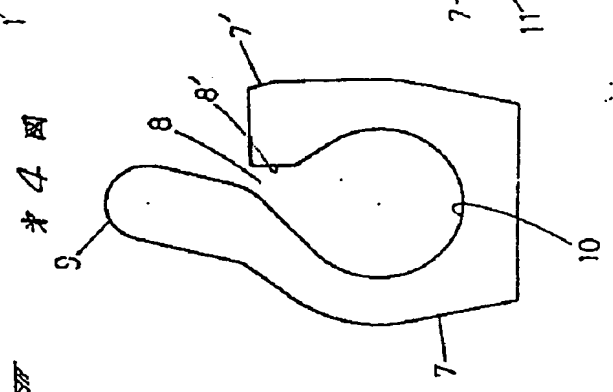


図 5

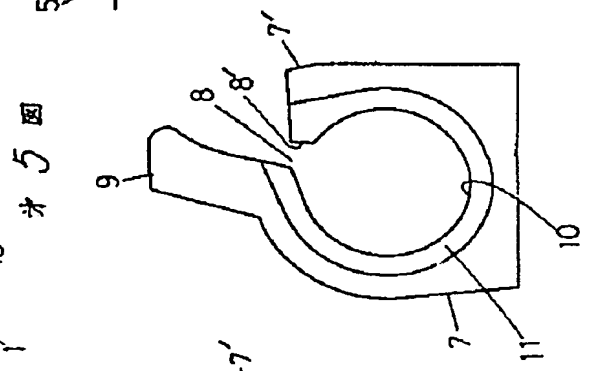
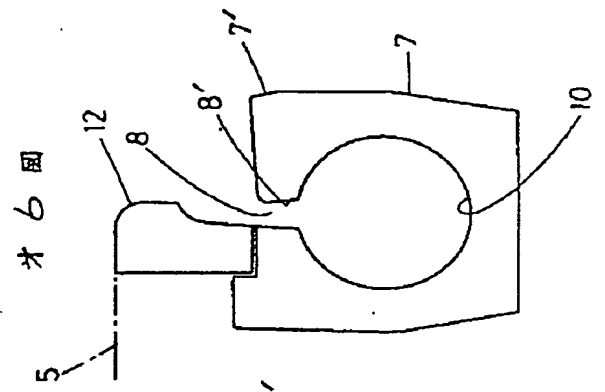


図 6



特許出願人 草 竹 彰 典
実用60-483

BEST AVAILABLE COPY